

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮野中2125番地1 (電話) 0952-98-3058		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 3 月 24 日	評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 3 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 4.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つのだ内科クリニック ・ こうすけ歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園が続くのどかな場所にあるホームは、ガーデニングで季節の花々が咲き、暖かい雰囲気にも包まれている。室内は行事の際の入居者の明るい笑顔の写真や、職員と一緒に創作した雛飾りや貼り絵があり、生活感、季節感のある空間創りがなされている。最初は日常の挨拶から関係づくりがなされた地域との関わりも今は深くなり、相互の信頼関係が築かれ、理念である「地域の中の一つの家族として、やすらぎと安心の楽しい生活を私達と一緒にしましょう」に基づくサービスが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果と家族のアンケート結果を職員会議で報告し、改善点を日々のサービスに活かされるよう取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価の意義、目的を理解し、自己評価に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回開催される運営推進会議では、サービス提供の状況報告や情報交換など、相互の話し合いがなされており、そこで得た情報をもとに、市町村へ事業所のサービスの取り組みについての働きかけが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱が設置され、家族の面会時や電話の際には、家族の思いを十分に聴き、話しやすい環境づくりに努められているが、外部の苦情相談窓口についても、家族に対して説明がなされることが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会や、幼稚園の運動会等、地域の行事には、地域の一員として参加されている。毎年行われている「お遍路巡り」では、お遍路さんの立ち寄り所となっている。事業所の行事にも地域の子供クラブや老人会の参加があり、地域に孤立することなく、職員自ら地域との関わりを深く持ち、交流に努められている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い決めた「地域の中の一つの家族として、やすらぎと安心の楽しい生活を私達とご一緒にしましょう」という、地域密着型に即した事業所独自の理念を掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りやミーティングの際に、理念の下に業務が遂行されているか確認し合い、周知徹底されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や、幼稚園の運動会等、地域の行事には、地域の一員として参加されている。毎年行われている「お遍路巡り」では、お遍路さんの立ち寄り所となっている。事業所の行事等にも地域の子供クラブや老人会の参加があり、地域に孤立することなく、職員自ら地域との関わりを深く持ち、交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果と、家族のアンケート結果を、職員会議で報告し、改善点を明確にし、日々のサービスに活かされるよう取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議では、事業所のサービス状況の報告や、出席者からの要望、地域の情報等が話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で得た情報をもとに、緑化推進運動や、今後の事業所の取り組み等について市に働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は頻繁にあり、その都度入居者の状況等報告されている。また、日々の暮らしぶりの写真が事業所に飾られ、家族もそれを観るのを楽しみにされている。金銭についての報告は、利用料支払時に、必ず預かり金の報告も一緒に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、電話ではその都度家族の要望等聞き、いつでも家族が話しやすい環境づくりに努められている。しかし、外部の苦情相談窓口があることについての表記はなされていない。	○	家族は、意見や不満等、事業所には直接言い難い事情がある場合も考慮して、外部の窓口があることについての説明をされることに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、職員の事情を考慮し、職員が働きやすい環境をすることで、離職は殆どなく、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修は、ケアカンファレンス時に事例をもとに対処法等周知されている。外部研修は、研修情報を張り出しや回覧等で知らせ、参加した職員は報告会等で伝達し周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者同士、同業者との情報交換や、外部研修の際での各々の情報交換は図られているが、管理者や職員が交流する機会を持つまでには至っていない。	○	運営者同士の交流をさらに発展し、管理者同士や職員同士の交流を図り、情報交換をすることでホームのサービスに活かしていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には体験入居により、馴染みやすい環境を事前に作る工夫をしている。また、入居後落ち着かれるまでは、ご家族も一緒に宿泊してもらうなど、入居者の不安をできる限り防げるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの尊厳を損ねることのないよう、人生の先輩として、作法や畑仕事、縫い物等、入居者から教わりながら、共に支えあう関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントは誰が見ても入居者の情報がわかるよう、入居者、家族の意向が表記されている。また、日々の暮らしからも入居者の好きなこと等を把握し、サービスに反映されるよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報や、日々の暮らしで把握した入居者や家族の思いをもとに話し合い、入居者のニーズに即した個別的な介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期、短期目標を定めており、3ヵ月後に短期目標の見直しを行い、長期目標は6ヵ月後に更新がされている。また、入居者に変化が生じた際は、その都度現状に即した介護計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	書道が好きな入居者には、地域の書道クラブに通ったり、個別的に通院介助を行ったり、入居者の要望に沿って、柔軟なサービスの提供がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は入居後も継続され、入居者が安心して受診できるよう支援されている。また、緊急時は、入居者の状況を把握している搬送先の病院を、個別的に定められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合の対応に係る指針、ターミナルケアの指針を、入居者、家族に説明し同意をとられている。家族の意向等を十分に聴き、方針を共有できるような対応に努められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を損ねることのないよう、一人ひとりに合った言葉かけや対応がなされるよう努められている。また、個人情報の取扱いについては、全職員と誓約書を交わし十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調や、意向にあわせ、一人ひとりのペースに合ったサービスが提供できるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、配膳等、可能な人は職員と一緒にに行っている。また、昼食は職員も一緒に摂ることで、会話弾み、明るく楽しい雰囲気になるよう、さりげなく自然に支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後からとなっているが、可能な限り、その日の入居者の意向等に合わせ支援されている。また、体調によって入浴を中止した場合は、入浴日をずらしたり足浴や清拭等に切り替え、柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除、調理の手伝い、カレンダーめぐり等、それぞれで役割を持っておられる。また、百人一首、書道、相撲観戦等、一人ひとりの楽しみごとを尊重した支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に散歩に付き添ったり、入居者の仲良かった友人の所へ外出したり、また、季節ごとにドライブや夕食等、外出支援は幅広く行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、玄関が開いたらチャイムが鳴るような仕組みになっており、外に出られた際は見守りを行うなど、対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回行われる避難訓練の際には、地域の消防団も参加されている。手引き歩行や車椅子使用の入居者の居室が分かる見取り図を配布されている。また、災害時の近隣の協力も理解を得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がいるので、バランスの取れた食事の提供がなされ、1日の食事摂取量や水分摂取量も把握されている。また、食事形態も、一口大の大きさやきざみ食等、一人ひとりの状態に合わせた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室外は季節の花々が咲き乱れ、室内も自然な明るさで、暖かい雰囲気がある。入居者と職員で一緒に作られた雛飾りや、行事毎の写真などが飾られ、季節感、生活感のある居心地の良い空間作りに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れたソファ、座布団等を持ち込まれ、入居者にとって馴染みのある、居心地の良い空間作りがなされている。		